

第 80 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2005 年 2 月 7 日(月) 18 時 00 分~19 時 00 分

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 菊池 有一郎 氏

(長崎大学大学院医歯薬総合研究科 口腔病原微生物学分野(旧口腔細菌学講座))

タイトル: *Porphyromonas gingivalis* の新規低分子蛋白(UstA)と
酸化ストレス応答蛋白との関係について

口腔偏性嫌気性細菌 *Porphyromonas gingivalis* (*P. gingivalis*)は、成人性歯周炎の発症・増悪に関わる最重要細菌であると考えられています。増殖環境の温度、酸素分圧などの変化は本菌の病原因子の発現に影響を与えるという報告がありますが、対数増殖期から静止期への移行が本菌の遺伝子発現にどのように影響するかについての報告はほとんどありません。そこで、*P. gingivalis* の環境ストレス回避機構を解明する目的で、対数増殖期と静止期における全蛋白を二次元ゲル電気泳動法にて展開し、それぞれの蛋白の発現を比較検討しました。その結果明らかとなりました、静止期において顕著に発現量が増加する新規低分子蛋白について報告させていただきます。